

5月11日、第1回平和の語り部本部推進委員会が開催された。(以後、推進委員会)が遺族会の平和の語り部(以後、語り部)は、これまで各地域で試行錯誤の末、形作られ発展した。しかし、今後は、国のみで補助事業として推進するため、各地域の独自性を活かしつつ、大きな指針を示すことが求められる。そこで全国5ブロックを代表する委員会を構成し、推進委員会を設置した。(メンバーは別掲の通り)

第一回の最も重要な議題は、語り部の意義と、今後目指す方向性を確認し、指針を審議する事で

【平和の語り部】事業化推進委員会を設立

お伝えしたい。

1. 遺族会の語り部事業のP.R.ポイント

(1) 戦争を体験した遺族の貴重な記憶

(2) 講話型以外（対話型、体験型）の多様な活動

(3) 地域の歴史を伝えること

※根底には、市井の人々のありふれた日常が、戦争によって奪われた話。特別な人ではなく、誰にでも起こりうる話として、自分事として捉えて

2. 今後の展望

喫緊の課題は、国民全體の1割となった戦争体験者の貴重な記憶をあらゆる形態を用いて残すこと。その取り組みの中で、青年部が戦争体験者の記憶を伝承し、次の世代へ伝承する。

第1段階（3年メド）

戦争体験者の記憶を速やかに記録する（体験者が主）

戦後世代が共に取り組

第2段階（3年メド） 次世代が体験者の記憶を伝える（次世代が主） 戦争体験者の記憶を伝承した戦後世代が、次世代へ伝承する

3. 具体的な取り組み 現在進行形の各地域の取組を継続させつつ、更なる活動の普及、拡大を目指し、新規活動者を育成するため、より地域の実情を踏まえた育成に努める。まずは、主たる3

話型、(3)体験型の中から、親会と青年部が取り入れやすいものを選び活動を重ね、活動者を育成する。冒頭、水落敏栄本会会長より委嘱状が手交された。委員からは自県の取組が紹介され、先進県が故の課題が示された。その後で、課題を乗り越えて、新たに事業を推進することが確認され、力強い幕開けとなつた。（具体策や審議内容は、次号に掲載。）



水落敏栄本会会長から委嘱状が手交された本部事業化推進委員=5月11日、九段会館テラスで

「平和の語り部事業」本部事業化推進委員の紹介

「平和の語り部事業」本部事業化推進委員会の紹介					
	所属	氏名	役職	戦没者との懇親	特記
1	日本遺族会	國政 隆昭氏	本会副会長 鳥取県遺族会会长	遺児	本会代表
2	第2 ブロック	大石 功氏	本会評議員 静岡県遺族会会长	遺児	講話者。先進県復興記念館との連携。
3	第5 ブロック	関谷 忠氏	本会評議員 宮崎県遺族連合会会长	遺児	講話者。先進県委託事業の実績
4	第4 ブロック	濱 順子氏	本会女性部幹事 徳島県遺族会副会长兼女性部長	遺児	講話者。先進県自県記念館を使った講話。修学旅行の事前授業
5	第3 ブロック	荒堀 修一氏	兵庫県遺族会副会长兼青年部長	孫	青年部講話者。先進県。施設（第3飛行場）を使用した講話。
6	第1 ブロック	田口 昭益氏	秋田県遺族連合会事務局長		先進県。秋田市立学校における講話普及、報道機関の連携実績。



ご挙式される秋篠宮皇嗣同妃両殿下=5月27日、千鳥ヶ淵
没者墓苑で



遺族を代表して献花台に進む水落敏栄
会会長



集団埋葬地と思われる場所を試掘する団員=5月
日 パラオ諸島ペリリュー島で

省催 労 厚主 千鳥ヶ淵戰没者墓苑拝礼式
秋篠宮皇嗣同妃両殿下御臨席

れている遺骨と合わせると37万700柱となつた。
納骨後、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご拝礼に合わせて参列者一同も拝礼し、両殿下ご退場後、皇宮警察音楽隊による奏楽の中、

岸田文雄内閣総理大臣の代理で林芳止内閣官房長官が献花し、続いて水落敏栄本会会長と参列支部遺族会代表8人が揃つて献花した後、関係国駐日大使、環境大臣、外務・

斬没者遺骨収集事業始まる
南方各地へ現地調査派遣

防衛省大臣代理、政黨の代表者等が献花した。コロナ禍での拝式は、感染防止対策のため参列者の人数が大幅に制限されていたが、今回は令和元年以来、通常の規次)はサイパン島で、5月9日から24日の期間で実施され、本会から2人

模での開催となつた。式典後は、全国の遺族代表者等、多くの参列者が拝礼をするために、献花台に向かって長い列をなしていた。

から1人が参加した。派遣団は中央高地(ブラッディノーラズリッジ)

幹事会で要望事項等審議

5月10日に事務局長幹事会、翌11日、女性部幹事会、青年部幹事会を相次いで開催し、「平和の語り部」事業を含む「戦後80年」に向けた組織継承3ヶ年計画」の方向性と具体的な進め方、令和7年度政府予算に対する本会の要望事項等を審議した。

女性部幹事会では、本年結成70周年を迎える女性部にふさわしい記念事業の実施について協議し、遺族会の歴史そのものと言える婦人部、女性部の歩みを次世代へ伝承し、恒久平和な社会の構築を願う遺族会を広報する「日本遺族会女性部の平和の語り部研修会」を開催することを決定した。

青年部幹事会では、親会と共に語り部事業を推進するため女性部、青年部共催でブロック研修会を開催することが確認されれた。また、戦没者等の遺畠品返還事業については、問題点等を精査し、今後も青年部活動の一環として推進することとした。

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

慰靈友好
親善事業

洋上慰靈の概要固まる

大型船舶を借上げ実施へ

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施する「戦没者遺児による慰靈友好親善事業」では、本事業が終了する令和7年度に実施予定の洋上慰靈の概要が固まり、本年度より児の参加者を募集する。洋上慰靈は10年ぶり3回目の実施であり、一人でも多くの遺児に青年部世代とともに参加願いたい。

「戦没者遺児による慰靈友好親善事業」は、平成3年度より政府の補助金等を受け、日本遺族会が実施しているが、遺児の高齢化に伴い参加者が減少しているため、本事業は令和7年度をもつて終了とする事とした。

そこで、終戦80年及び事業実施35周年を迎える令和7年度は、これを記念して要望の多かつた、大型船舶を借上げての洋

上慰靈を計画、この度概要が固まった。洋上慰靈は、海に鎮まる3万余の御靈の慰靈を行ふと共に、旧戦域の方々との友好親善に加え、戦争の悲惨さ、平和

の尊さを次世代へ伝承する語り部の育成を目的としており、その一端を担うべき青年部の参加が望まれる。

付添者で戦没者の孫、ひ孫、甥、姪は国より3

分の1の補助が受けられることから、是非この機会に一人でも多くの遺児に青年部と共に参加願いたい。

募集要項は次の通り。

▼時期及び地域 令和7年6月上旬(約11日間)、予定

▼参加資格 父等を海

域で亡くされた戦没者の遺児。(但し、本洋上慰靈は実施地域として洋上以外にフィリピン諸島を含んでおり、定員に満たない場合は同地域の関係者や過去の参加者も認められる場合がある)なお、申込多数の場合は選考となる。

▼募集中の件 7月25日、伊都郡九度山故郷センターにおいて、令和6年度和歌山県遺族連合会研修会が開催され、約100人が参集した。本部より担当者が派遣され、平和の語り部事

業の推進のための具体策について説明がなされた。

本部担当者は、遺族の記憶は戦争の惨禍を繰り返さないための貴重な教訓であり、国民の大多数

が戦後生まれとなつた今、遺族一人一人の記憶が貴重であることを伝えており多くの遺族が語り部事業に参画することを依頼した。そして、永

く、豊吉は軍人として又陸警としての本分を立派に全うする時が参りました。

覚悟は既に故郷出発のときより成つてゐます。豊吉の身は大君に捧げしもの只専心任務に邁進、苛烈なる戦局打開あるのみです。

豊吉は生を享けし喜びと感激で胸一ぱいで。只長生して十分なる御奉公の出来得なかつたのは残念ですが、豊吉の死が大東亜永遠の平和の礎となるのだと思へば、此上もなき光栄と存じ悦んで散つて行きます。

豊吉なあとは何卒一家挙つて聖恩の万能の一にも御報い下されんことを御願します。

神勅相違なければ日本は亡びず日本は必ず勝ちます。御両親様には十分御身御大切に末長く銃後の勤を果されんことを御祈りします。

親戚の方々始め、生前御交誼を頂いた方々に呉々も宜敷く御伝へ下さい。

希望も夢も青空にかけた甲斐ある今日ぞ嬉しき

豊吉

豊吉